

自然観察会報告
ギフチョウとカタクリの観察会
高田 歩



図1 尾根沿いを歩く参加者

2016年4月3日、満開の桜や桃の花を横目に、浜松市の北側にある枯山にて観察会を行ないました。今回は静岡昆虫同好会とともに集まり、総勢15人で付近を散策しました(図1)。講師として、高橋真弓先生、諏訪哲夫先生、清邦彦先生に道中各所でギフチョウの生態について、解説をしていただきました。

この日は小雨がぱらつく曇り空でしたが、枯山の尾根まで登った開けた場所でさっそくギフチョウを見ることができました(図2)。ギフチョウは午前気温の低い時間帯では地面近くの低いところを飛ばらしく、観察も写真撮影も比較的容易でした。日が出て少し暖かくなると、ギフチョウは高いところをすばやく飛び始めました。ときおり、足元に咲くタチツボスミシヤカタクリにとまりますが、これまたすばやく吸蜜して飛び去るので、参加者のほとんどはカメラで追うことをやめ、観察に徹していました。

日が差し込む中で散策を続けていると、遊歩道の端でガサツとすばやく動くニホンカナヘビが何度も目につきます。ニホンカナヘビは、地表近くにいる小型の昆虫などを採食するトカゲで、人家の庭でも見られるほどにたいへん身近な生き物です。丈の低い、小さな花で頻繁に吸



図2 枯山のギフチョウ



図3 カンアオイの裏にあるギフチョウの卵

蜜するギフチョウにとって、ニホンカナヘビは恐ろしい存在なのかもしれません。そのようなニホンカナヘビを何気なく1匹捕まえてみると、脇の下にタネガタマダニの幼虫が2匹、バッチリ吸血していました。それを見た参加者からは小さな悲鳴が上がりましたが、自然の生態系が複雑で面白いと思える光景でした。

当NPOではこれまで、2007年と2014年にギフチョウの観察会を実施しており、本誌のコラムでもその生態を紹介してきました。ギフチョウは個体数の減少が心配され、大切に保護されてきています。そのような中、今年も悪天候にも関わらず10匹近く確認できたことは喜ばしいものです。また、観察の最中、参加者がカンアオイの葉の裏にギフチョウの卵を見つけました。真珠のような光沢のある美しい卵です(図3)。このまま順調に命を繋いでほしいものです。